

東京経済大学報

2017年度 第50巻 第2号



Forward Forever

デフリンピック・サムスン大会
男子200m決勝で力走し、
金メダルを獲得した山田真樹選手
(コミュニケーション学部2年)

2018年の新春を迎えて

謹んで新春のご祝詞を申し上げます。みなさまには平素より本学へのご支援・ご厚情を賜り、ありがたく厚く御礼申し上げます。

本学にとりまして創立120周年の節目の年となります2020年に向けて、現在は「創立120周年記念事業」の実現に邁進しているところでございます。この記念事業では、教育・研究の一層の充実を図ることはもとより、国分寺キャンパス第2期整備事業としてそれを支える施設や環境の整備にも取り組み、本学のさらなる発展の基礎を築くことになるものと考えております。さらには、「東京経済大学120年史」の編纂、創立120周年を記念した特別展示などを計画し、着々と準備を進めております。

また、駅伝大会での活躍を支援する事業、学生たちが本学で成長していく姿を記録していく事業など、大学ならではの計画も盛り込んでおり、東京経済大学の現在をさまざまな角度からご披露申し上げることができるともでございます。

これらの記念事業の実現は、すでにご協力をお願いしております「東京経済大学創立120周年記念事業募金」への寄付金に依るところも多く、これまでにたくさんの方々のご理解・ご賛同を得て参りましたことには深甚なる感謝の意を表したく存じます。しかしながら、総事業費90億円を予定しております記念事業を推進してまいりますには、引き続きみなさまから絶大なご支援をお願い申し上げますところでございます。

2018年の新春を迎え、創立120年までは余すところ2年となりました。創立120周年の記念事業は必ずや「東経大ブランド」の一層の確立に寄与するものと考え、その実現に向けた「チャレンジ」を加速させていくよう努めてまいります。みなさまには本年も倍旧のご厚誼を賜りたくお願い申し上げます。

学校法人 東京経済大学 理事長

後藤 鉄四郎



皆様、あけましておめでとうございます。

2014年4月に学長に就任して以来、無我夢中でやってきました。今日に至るまで、さまざまなことができました。

14年4月に新図書館がオープンしました。同年10月には、「大倉喜八郎 進一層館」が完成し、大倉喜八郎翁の銅像が建立されました。ガラス張りの明るい教室棟と図書館を得たことによって、キャンパスの雰囲気が一新されました。

このようなハード（施設）面での充実を受け、次の課題として、ソフト面での充実、つまりは教学改革に取り組みました。そのために、14年度は「教学改革プラン」、15年度は「中長期教学ビジョン」という、改革のための「たたき台」を公表。そして、17年度には、ロードマップを含めて、教学ビジョン「東経大チャレンジ2020」を策定しております。今後は、毎年度の事業計画や創立120周年記念事業などに際しても、教学ビジョンの考え方を軸に取り組んでいくことが望まれます。なお、教学改革の実例としては、グローバルラウンジ「コトパティオ」の開設、17年度からのキャリアデザインプログラムの実施、進一層科目群の導入などを挙げることでございましょう。

一方、14年4月に大学のHP上で「学長ブログ 進一層だより」をスタートさせました。わたしの目線で、参加した行事や会合などに関するコメントを載せております。わたしなりの「東京経済大学案内」でもあります。本学の近況を身近なものとして感じ取っていただく媒体になればと思っております。

大学をめぐる環境は、今後ますます厳しくなっていきますが、本年も、皆様方のご理解とご協力を、よろしくお願い申し上げます。

東京経済大学 学長

堺 憲一



理事長・学長

新年のあいさつ

大倉喜八郎記念 東京経済大学学術芸術振興会の 15年を振り返る

本学の前身である大倉商業学校の創立者・大倉喜八郎は実業家として
大きな業績を残す一方、学術・芸術分野の振興にも力を尽くしました。

その志を継承すべく、本学では2002年4月、大倉喜八郎記念東京経済大学学術芸術振興会（略称：大倉記念学芸振興会）を発足、
著名な学者による学術講演会や各種の芸術公演を企画し、広く地域の方、一般の方々にも公開してきました。

発足以来15年の節目を迎えた今、大倉記念学芸振興会のたどった15年を振り返ります。



設立趣意書

このたび本学は「大倉喜八郎記念東京経済大学学術芸術振興会」を設立することとしました。

ここに同会の趣旨をご説明して、本学卒業生、父母の会会員、旧教職員、一般篤志家など本学関係者の皆様に、本会へのご理解とご加入をお願いする次第であります。

この大倉記念学芸振興会（略称）とは、なによりも東京経済大学への後援者すなわちサポーターの組織であり、東京経済大学に継続的な寄付を実行する本学関係者の組織であります。

このような継続的な寄付者を会として組織いたしますのは、お寄せいただく寄付金の使途を決定する場合に、寄付者ご自身すなわち会員のご意思を尊重するためであります。こうした本会のあり方にかんがみ、本会会則案等は、卒業生・旧教職員など本学関係者各分野の代表者による、設立発起人会で作成していただきました。

寄付金による本会の事業としましては、設立発起人会及び本会設立総会では、本学の前身、大倉商業学校の創立者大倉喜八

郎の文化的貢献の志を継承して、学術芸術の振興とそれによる本学の社会への文化的貢献を中心とすることとしました。

具体的な事業としましては、著名な学者（例えば国際的な賞の受賞者）による講演やシンポジウム、最新の学問の成果（例えば生命科学）についての解説的な講座、有力な芸術家（例えば有望新人音楽家や有力古典芸能者）による公演などを、100周年記念館などの本学施設で開催し、会員の皆様や本学の学生はもとより広く社会に公開することを考えておりますが、資金の充実に伴い、本学研究者への研究活動支援などへ事業を拡大することも視野に入れております。

なにとぞ、本会の趣旨と事業にご理解をたまわり、正会員または賛助会員*としてご加入下さいませようお願い申し上げます。

大倉喜八郎記念東京経済大学学術芸術振興会
2002年4月

* 2016年度より一般会員に名称変更

大学の地域貢献の一つとして しっかりとした地位を確立

堺 憲一学長
(大倉記念学芸振興会会長)



2002年4月の発足以来、第一線で活躍されている多くの著名な研究者や芸術家による学術講演会や芸術公演を開催してきた大倉記念学芸振興会。いまでは、東京経済大学の地域貢献の一つとしてしっかりとした地位を確立しています。年数回のイベントには、毎回、多くの市民の皆さんが参加されているからです。

また、講演会・公演は、振興会を支えてくださっている会員相互の親睦の機会としても大きな役割を果たしております。毎回、会の終了後に実施されている懇親会は、会員の皆さんが講演者・公演者と直に話ができる貴重な場になっています。

大倉記念学芸振興会が、国分寺を中心とした地域社会において文化・学芸振興の場として今後とも大きな役割を果たし続けることを確信しております。

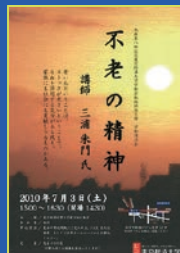
2014年11月
講演「怪物商人 大倉喜八郎」&
芸術公演「オークラウロ・コンサート」
作家の江上剛氏による講演と大倉喜八郎の息子・喜七郎が考案した楽器・オークラウロの演奏という複合企画でした。



2012年2月
学術講演会
「写真家ハービー・山口 トークショー」
本学卒業生で世界的写真家のハービー・山口さんを迎え、「何故私は人間を撮るのか」を語ってもらいました。



2010年7月
学術講演会
「不老の精神」
日本芸術院院長でもあった作家の三浦朱門氏を迎え、「老いるということ」をテーマにした講演会でした。



2009年10月
芸術公演
「家族の情景 詩の朗読&ピアノコンサート」
詩人・谷川俊太郎さんの朗読とミュージシャン・谷川賢作さんのピアノによる父子共演となりました。



2009年2月
芸術公演
「八代目春風亭柳橋 独演会」
本学卒業生の柳橋師匠が初お目見え。この後、テノールの佐野さんと芸術公演の二枚看板になっていきます。



2008年6月
学術講演会
「セレンディピティーと創造性」
ノーベル化学賞受賞者の白川英樹博士を迎え、電気を通すプラスチックの発見を語ってもらいました。



2017年度

2016年度

2015年度

2014年度

2013年度

2012年度

2011年度

2010年度

2009年度

6月17日 国鉄分割民営化30年―歴史の文脈の中で考える― 講師・立教大学名誉教授 老川慶喜 7月22日 「フレンチのあつち」PASON FLEMING 出演・河内あやひ フランス文化大使 10月21日 「教育と職業の未来・21世紀の「知の革命」が変える私たちの学びと仕事」 講師・京都大学教授 飯島 透 11月11日 「奥井紫麻ピアノリサイタル」 12月17日 「八代目春風亭柳橋 独演会」(予定)	2月18日 講師・東京大学名誉教授 佐藤 文文 12月17日 講師・東京大学名誉教授 佐藤 文文 10月22日 講師・東京大学名誉教授 佐藤 文文 7月30日 講師・東京大学名誉教授 佐藤 文文 6月4日 講師・東京大学名誉教授 佐藤 文文	6月6日 「タイの政治混乱―せめぎあつた民主主義―」 講師・明治学院大学教授 重富 貴 10月24日 講師・神戸大学大学院教授 巽 好幸 12月5日 久元祐子ピアノリサイタル・コンサート「モーツァルトの面影に寄せて」 2月20日 「友納あけみ シャンソンコンサート」	5月17日 「戦後社会 ドイツと日本―その並行と乖離―」 講師・専修大学教授・東京大学名誉教授 広渡 清吾 6月28日 「宇宙と私たちの未来―「はやぶさ」から「はやぶさ2」へ」 講師・JAXA名誉教授 川 泰宣 10月25日 「佐野成宏 テノールリサイタル」 11月29日 講演「怪物商人 大倉喜八郎」(講師：作家 江上剛 & 「オークラウロ・コンサート」) 2月14日 「地球をめぐる水と未来」 講師・東京大学教授 沖 大幹	2月22日 八代目春風亭柳橋 独演会 12月14日 小島りち子 タンゴ・コンサート 11月9日 「桜剛之ピアノリサイタル」 6月29日 「吉村作治氏講演会」 6月1日 「鉄道の持続的発展を目指して―鉄道総研の活動と鉄道技術の変遷―」 講師・鉄道総合技術研究所理事長 垂水 尚志	6月2日 「素粒子と宇宙」 講師・東京大学教授 小林 龍雄 7月14日 「平家の人々」そして鎮魂の歳月」 講師・本学名誉教授 石丸 昌子 10月13日 「神田さち子語り芝居 帰ってきたおばあさん」 11月24日 「佐野成宏 テノールリサイタル」 12月16日 「はやぶさ2 奇跡のアプローチ」 講師・JAXA教授 川口 淳一郎	2月25日 「何故私は人間を撮るのか 東京・ロンドン・東日本大震災」 講師・写真家 ハービー・山口 11月26日 「セレンディピティーと創造性」 11月5日 「科学の二つの顔 現代社会とのかかわり」 講師・東洋英和女学院大学学長 村 陽 郎 7月9日 「ヨーロッパの統一通貨 ユーロの危機と将来」 講師・中央大学大学院教授 田中 素香 2月25日 「セレンディピティーと創造性」	3月5日 「本田早美花 ヴァイオリンリサイタル」 11月20日 「外国人が見た徳川日本」 講師・江戸東京博物館館長 竹内 誠 10月9日 「不老の精神」 講師・作家 三浦 朱門 7月3日 「誰が数学嫌いにしたのか」 講師・京都大学名誉教授 上野 健爾 5月29日 「不老の精神」 講師・作家 三浦 朱門	5月16日 「建築と自然―藤森流建築の作り手」 講師・建築家・東京大学教授 藤森 照信 5月30日 「今こそ学ぼう! アフリカの分かれ合い精神」 スタンデンでのNGO活動から」 講師・NGOロシナンテス理事長・医師 川原 尚行 9月26日 「田嶋悦子ピアノファンタジー」 10月17日 「家族の情景」詩の朗読&ピアノコンサート」 朗読：谷川俊太郎 ピアノ：谷川賢作 3月6日 「田代和久 バリトンリサイタル」
---	---	---	--	---	--	--	--	---



大倉記念学芸振興会学術講演会レポート

教育と職業の未来 ——21世紀の『知の革命』が変える私たちの学びと仕事

大倉記念学芸振興会理事 新正裕尚 経営学部教授「地球の科学」ほか担当



10月21日の学術講演会では大型台風接近の篠突く雨の中、京都大学教授・教育担当理事補の飯吉透先生をお迎えし、社会の流動化のなかで教育がどのように変わり、変わっていくべきかについて、先進的な事例紹介を含め語っていただきました。

まず50年程前の学習雑誌の空想記事、コンピュータが教える未来の学校の様子を引き、教育イノベーションとは何か？と問題提起されました。一般に考えられる「イノベーション技術革新」ではなく精神的所産がかかわることを強調し、人によって「必要な形」で教育を届けねばならないと述べられました。

さらに、AI、教育ゲームと仮想現実の話題を経て、教育のオープン化へと移ります。先駆けとしてマサ

チューセツ工科大学のOpen CourseWareで年間授業料が800万円もする大学の多数の授業がオンラインで公開された衝撃と瞬く間に世界中に広がった取り組み例を説明し、京都大学も山極総長自ら霊長類学でedXに参加する模様が動画を含め紹介されました。そして教えることが教師の専売特許ではなく、意欲ある人が互いに学び教えることが芽生えつつあることが示されました。

最後に広い視野・多面的洞察に様々な専門的知識・能力がぶら下がった「超T型人才」が必要であること、さらに「仕事」と「学び」がシームレスに融合し、その両者の間を、誰もがいつでもどこでも自由に行き来しながら自己成長し続けられる社会を開かれた教育が可能とすることに言及されました。

ICTの発達により万人が創意工夫で教育に参加できる時代が来ており、身の丈に合ったところから始めてみよと思わせられる講演でした。教育や人材育成にもかわる話題ということで、井澤邦夫国分寺市長、星野信天国分寺市長をはじめ、遠方の大学の教員など少し普段と異なる聴講者にもお越しいただきました。超大量の話題を提供されたため、振り返り用に当日のスライドをweb上で配布するサービスが行われたことも付記しておきます。

*OpenCourseWare…大学で正規に提供された講義とその関連情報のインターネット上の無償公開活動
*edX…米ハーバード大学でサチューセツ工科大学が2012年に設立した非営利的教育機関

大倉記念学芸振興会イベント開催報告

11月11日には、本学園分寺キャンパスのD101教室において芸術公演が開催されました。

今回は「ピアノリサイタル」で、ソリストに迎えたのは今年7月に小林研一郎指揮による新日本フィルハーモニー交響楽団との共演でグリーグのコンチェルトを弾き、鮮烈な日本デビューを飾ったばかりの奥井紫麻さん。若千13歳の若き天才ピアニストです。

幼くして才能を見出された奥井さんは、ロシアに招かれて現在モチャイコフスキー記念ロシア国立モスクワ音楽院付属中央音楽学校でその演奏に磨きをかけ続けている逸材で、海外のコンクールでの入賞経験から現在のところは海外での注目度が高いようです。今後は日本国内でも大いに注目されていくことでしょう。

著名な芸術家による公演開催はもち

今日のプログラム

1. クラディミール・スヴェルドロフ・アシナージ
スカルラッチ・形式によるソナタ第3番
2. フランツ・シューベルト
第14号交響曲 第3楽章
3. フレデリック・ショパン
第24号交響曲 第3楽章

曲目解説

クラディミール・スヴェルドロフ・アシナージ
スカルラッチ・形式によるソナタ第3番

1904年作曲された作品。第3楽章は、スカルラッチの形式によるソナタ第3番。第3楽章は、スカルラッチの形式によるソナタ第3番。第3楽章は、スカルラッチの形式によるソナタ第3番。

クラディミール・スヴェルドロフ・アシナージ
スカルラッチ・形式によるソナタ第3番

1904年作曲された作品。第3楽章は、スカルラッチの形式によるソナタ第3番。第3楽章は、スカルラッチの形式によるソナタ第3番。第3楽章は、スカルラッチの形式によるソナタ第3番。

クラディミール・スヴェルドロフ・アシナージ
スカルラッチ・形式によるソナタ第3番

1904年作曲された作品。第3楽章は、スカルラッチの形式によるソナタ第3番。第3楽章は、スカルラッチの形式によるソナタ第3番。第3楽章は、スカルラッチの形式によるソナタ第3番。

クロード・ドビュッシー 第24号交響曲 第3楽章

1904年作曲された作品。第3楽章は、スカルラッチの形式によるソナタ第3番。第3楽章は、スカルラッチの形式によるソナタ第3番。第3楽章は、スカルラッチの形式によるソナタ第3番。

クロード・ドビュッシー 第24号交響曲 第3楽章

1904年作曲された作品。第3楽章は、スカルラッチの形式によるソナタ第3番。第3楽章は、スカルラッチの形式によるソナタ第3番。第3楽章は、スカルラッチの形式によるソナタ第3番。

クロード・ドビュッシー 第24号交響曲 第3楽章

1904年作曲された作品。第3楽章は、スカルラッチの形式によるソナタ第3番。第3楽章は、スカルラッチの形式によるソナタ第3番。第3楽章は、スカルラッチの形式によるソナタ第3番。

今日のプログラム

大倉記念学芸振興会芸術公演レポート

奥井紫麻ピアノリサイタル

取材：広報課インターン生 蔦田愛加（コミュニケーション学部3年）・渡邊 翔（経済学部3年）



るんのこと、これからの活躍が期待される新鋭芸術家の招聘にも意を注いでいる大倉記念学芸振興会にふさわしい企画でした。

演奏されたのはショパンの3曲を中心にシューベルト、ドビュッシーなどの作品にアンコールを加えて計7曲。白のドレスをまとった小さなピアニストがときには大きく身体を揺らしてリズムを刻み、ときには力強くも繊細なタッチで音を紡ぎ出す姿は、とても13歳の少女とは思えないほど堂々としたもので、聴衆が演奏に心奪われて聴き入っているようすが見てとれました。演奏を終えた奥井さんに向けて「ブラボー」の声が飛び、場内は万雷の拍手に包まれた素晴らしい公演となりました。



「進一層」の気概を持って ～学生のチャレンジは続く

困難に出合ってもひるまずに、なお一層前に進む。大倉喜八郎の残した「進一層」という言葉を実践するように、学生たちは主体的に数々のチャレンジに取り組んでいます。昨年の2月には現代法学部の橋爪幸代ゼミのゼミ生たちが少子化解消提言コンテスト「Over Million Challenge」でグランプリ獲得という栄冠を勝ち得ましたが、その後も学生たちのチャレンジは絶えず続けられてきています。

毎年のように好成績を挙げることで常連校になったともいえる「日銀グランプリ」。日本金融への提言を課題として実施される大会で、2017年度は全国39大学112編の応募論文の中から経済学部の石川雅也ゼミから参加した1チームが書類審査を通過して決勝進出を果たしました。同時に決勝進出チームに次ぐ上位8チームに授与される奨励賞にも石川ゼミの2チームが選ばれています。11月23日（木・祝）に日本銀行本店（東京・中央区）で開催された決勝大会では「プレミアム・インフラ・プロジェクトの推奨～多様性が生む経済成長の追い風～」



性が生む経済成長の追い風～」のタイトルでプレゼンテーションを行い、敢闘賞を受賞。昨年、今年と2年連続で決勝進出を果たしたことは、続く学生の意気込みにもつながるのではないのでしょうか。

一方で、経営学部の関口和代教授が担当する特別講義「ビジネス創造」を履修する学生のグループは、学生による新事業提案コンテスト「キャンパス



ベンチャーグランプリ」に挑戦。書類選考による22グループが10グループに絞り込まれるセミファイナルを勝ち抜き、東京大会最終審査会へ駒を進めました。最終審査会は11月28日（火）に霞山会館（東京・千代田区）で行われ、プラン名「高齢者から子供へ伝える体験型教育事業」で奨励賞を受賞。こうした挑戦は後に続く学生たちに大きな刺激を与えることでしょう。

ここで紹介したほかにも学生たちはそれぞれに様々な挑戦を繰り返しています。本学HPではそうした学生たちの活躍を逐次紹介していますので、トップページのニュース欄にはぜひ注目を。

南川客員教授が 中国の環境と開発に 関する国際協力委員に 就任



このたび中国政府からの要請を受け「中国 環境と開発に関する国際協力委員会」の委員に、南川秀樹客員教授が就任しました。南川客員教授は1974年の環境庁（現環境省）に入庁以来、自然環境局長、地球環境局長、官房長、環境事務次官を歴任、2014年4月からは本学客員教授として「地球環境問題」などの講義を担当している環境問題の専門家です。

今回の委員就任にあたって広報課では一問一答形式のインタビューを行い、委員会の位置づけや委員としての抱負などを南川客員教授に語ってもらいました。

インタビューの詳細は本学HP（<http://www.tku.ac.jp/news/020163.html>）に掲載しています。トップページ左上のキーワード検索「南川客員教授 就任」からご覧ください。

大倉記念学芸振興会 次回イベントのお知らせ

芸術公演

春風亭柳橋独演会

2018年2月17日（土） 15時開演

出演 八代目春風亭柳橋師匠ほか

場所 本学国分寺キャンパス
大倉喜八郎 進一層館（フォワードホール）

詳細は本学Webサイト・トップページのイベント情報をご覧ください。



2017年10月28日(土)、私たちの今年度の活動の集大成「働き方を考えるシンポジウム」を大倉喜八郎進一層館で行いました。企業2社による働き方改革に関する講演と、学生による活動発表、小山健太先生をファシリテーターとして学生と企業によるパネルディスカッションを行い、総勢90名を超える方にご参加頂きました。シンポジウム前後のアンケートを比較すると、参加された多くの方に「働き方」に関する何らかの意識変化があり、80%以上の方から今回のシンポジウムに満足したと回答頂きました。

私たちが、実際に「働き方改革」を意識し始めたのは、シンポジウムから遡ること5カ月、5月末に行われたGoogle Womenwillのワークショップです。このワークショップは、既に働き方改革に取り組み始めている企業や団体の事例を学び、現在、主に女性に置かれている「育児と仕事の両立」という問題に対して解決策をグループで考案し、プレゼンテーションを行うというものでした。ワークショップの中で考案された取組みの一つ「子ども参観」という問題解決策は、上司が一日、部下の子どもの面倒をみるという取組みで、育児をしながら仕事をする大変さを体験し共有してもらう目的で

社会を変える一步を東京経済大学から 「働き方を考えるシンポジウム」と その開催に向けた私たちの活動

キャリアデザインプログラム1年 加藤美香



す。既にこの解決案に近い取組みを行っている企業もあるようで、全体的にとっても現実味のある提案ができたと思負しています。

私たちはこのワークショップを通じて、日本社会の現状では、育児を理由に自らのキャリアを諦めなくてはならない女性や、仕事と育児の両立に悩みを抱える人が多くいることを知りました。それと同時に、この問題は他人事でなく、私たち学生の多くもまた数年後に同じ問題を抱える事になるという危機感を覚えました。この誰もが直面しうる問題を、当事者になってから考えるのでは遅い、直面してからでは正しい行動ができないのではないかと感じました。私たちは、この女性の活躍を阻害する根本的な原因は、女性の問題ではなく職場や家庭の環境、女性は家庭や育児中心という日本社会が持つ考え方の問題だと気がついたのです。今の日本社会における「働き方改革」は、当然個人で解決できることではなく、一緒に働く周囲の人間や組織も積極的に関わる必要があると考えています。

とところで、学生が社会を変えることは不可能なことなのでしょうか。私たちは、そうは思いません。学生にしかできないことがあると思います、私たちは「TKU Unlimited」という団体

をワークショップから活動を共にする23人で立ち上げ、社会に「働き方改革」について投げかけ、情報を提供し共に考えていくという活動をスタートさせました。その第一歩として、誰もが活躍でき幸せな社会人生活を送ることができるよう「私らしい咲き方」をテーマに、「働き方改革」に取り組む企業の事例から学び、家庭と仕事の両立を考えるシンポジウムの企画、運営を行ったのです。

プ ロジェクト開始直後は、なぜ学生が社会に訴える必要があるのか、なにを学生という立場で訴えたいのか、なぜ働き方改革が必要なのか、核心となる点が定まらず多くの時間を費やしました。自分たちの趣旨を打ち出すに



シンポジウムに向けて議論を重ねる学生たち

しても働くことの現実を知らない以上、具体的に当事者たちの抱えている想いが分からなかったためです。そこで私たちは、北山聡准教授、新井一央特命講師、小山健太専任講師にインタビューを行い「築いてきたキャリアの断絶」に大きな問題があると気が付きました。一般的に女性（男性）は、子どもが誕生すると養育に割く時間を確保するため正社員でなくなるケースが散見されます。つまり、自らのキャリアを断絶せざるを得ない状況が発生するということです。学生時代も含めそれまでに積み上げてきたキャリアはどうなるのでしょうか。子育てが理由で、自らのキャリアを諦めなくてはならないのであれば、早くそのような環境を変えなくてはいけないと焦りを感じたのです。私たちがすべきことは、まず「働き方改革」という言葉をもっと世間一般に広く認知してもらうことです。「働き方改革」は企業や団体が制度を作ることで主として考えられがちですが、本質はひとりひとりが「相手の気持ちに寄り添う」ことであり、それにより働き方を変えることは十分可能だと考えます。制度はあくまでも働きやすくするツールであって、根本的な改革にはならないのです。そのような事実や考え方を、すこしでも多くの人に知ってもらうことが私たちの今すべきことだ



私たちがシンポジウムを作り上げました

と考えシンポジウムを実行したのです。

シ ンポジウムの準備や運営は、私たち学生が成長するとても良い機会でもありました。中でも、トラブル対応は授業では決して学ぶことのできない真の学びでした。私がトラブル対応中に気付いたことは、ピンチの時こそ焦らず慎重にいる必要があるということです。先手を打って動くこうとすると、結局は完全な対応はできず中途半端で終わってしまうという苦い経験もして、私は大きく成長しました。メンバーそれぞれも、それぞれの役割を通じて大きな成長を遂げました。学内・学外広報活動班、運営準備班に分かれ、各リーダーを中心に実践的に活動を行いました。学外広報班は、他大学にシンポジウムの案内電話をかけ約50大学から

資料設置の許可を得ました。また報道機関に向けたニュースリリースを作成し、新聞社に直接働きかけも行いました。これらのことは、特別な機会がない限り大学生では経験のできないことで、学生の枠を超えた実績としてメンバーの皆にとっても大きな自信に繋がりました。

そ の反面、シンポジウム実施が決定してから具体的に動き出すまでに多くの時間を要してしまったことや、来場者目標を大きく下回ってしまったことなど今後の課題も多く残されました。次のシンポジウムを期待する声も次々とあがっていますので、振り返りを行い学生のアイデアと行動力で今後もオリジナリティのある活動を行っていきたいと考えています。現在は、公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパンの協力を得て、途上国で教育が受けられない環境や、性差別に苦しむ少女たちを支援していく活動もスタートさせました。

TKU Unlimitedは、「どんなことにも限界を決めず、まずは挑戦していきましょう」という意味を持っています。私たちにしかできない挑戦を今後も続けていきます。そしてこの意思が、今後、東京経済大学の学生たちに広がっていくことを願っています。

学術フォーラム

「地域発展のニューパラダイム」報告

経済学部教授 周牧之

地域の空洞化、東京への一極集中、情報革命とグローバルゼーション、そして待ったなしの環境問題——地域と大都市をとりまく課題をどう見据え、発展への道のりをどうさぐるか——。東京経済大学と一般財団法人日本環境衛生センターは2017年11月11日(土)、学術フォーラム「地域発展のニューパラダイム」(後援:環境省、一般社団法人場所文化フォーラム)を本学の大倉喜八郎進一層館(フォワードホール)で開催しました。

本学経済学部の尾崎寛直教授が総合同会を務め、本学教職員、学生のほか中国を含む外部から百数十名の来場者があつた今回のフォーラムでは、地域活性化への多様な方向性を提示することとなりました。

開会挨拶では、堺憲一学長が祝辞とともに「周牧之経済学部教授ゼミの学生が頑張る、このフォーラムの運営に当たっている」と紹介しました。

次いで森本英香環境事務次官が挨拶し、「CO₂削減への持続的取り組みを、人の幸福、生活の質の向上、地域の発展につながる形で続けることが重要。環境、経済、社会問題の同時解決をはかるべきだ。地域の資源を生かし、国立公園を世界水準に高め、年間2500万人に上る訪日外国人の旅行ニーズに応える。これを地域の幸福につなげる」と述べました。

以下に、当日行った3つのセッションでの登壇者の発言要旨を紹介します(敬称略)。

Session 1

セッション1 地域と環境

地域や企業の環境に配慮した発展の取り組みについて紹介

司会: 南川秀樹 本学経済学部客員教授・一般財団法人日本環境衛生センター理事長
パネリスト: 田中幹夫 富山県南砺市長

鈴木梯介 鈴鹿かまぼこグループ代表取締役副社長
信時正人 横浜国立大学客員教授
袖野玲子 慶應義塾大学准教授

南川秀樹 ● 経済発展と環境保全は両立できるのか。日本には足尾銅毒事件など地域環境を破壊した残念な歴史がある。現在、脱炭素化にむけた取り組みはヨーロッパで進み、太陽光、風力、バイオマスでは中国、韓国の企業が強く、日本は出遅れている。今後エネルギー消費量を減らし、発電はCO₂が出ないものにし、生物多様性を守ることで経済的かつ資源保護にもメリットがあるよう仕向けることが重要だ。規制だけでは難しい。環境倫理を打ち立てることも必要だ。自然を守れば観光客も増え経済発展にもつながる。日本と中国の都市が連携し、地域の経験を語り、共に学び研究していく。中国の

環境改善に力を尽くし日中韓協力で環境問題に取り組みたい。

田中幹夫 ● 南砺市は「合掌造り」が世界遺産に指定されている。自然と共生し、環境への負担が少ない暮らしと循環型社会の構築を目指す「エコビレッジ構想」を進めている。森林資源を生かし、製材所から出るおがくずから「木質ペレット」を作る工場を建設中である。自前の燃料を利用したエコビレッジ住宅ゾーンをつくる活動も市内外の人々が勉強をしつつ進めている。新たな住民自治の仕組みとなる小規模多機能自治を目指し、市民が幸福感を抱く町づくりを実際に様々やると教育、産業、イベント、福祉の各分野にまたがって



森本英香環境事務次官 挨拶



いく。今後は雪国の地域性を生かした小水力発電、発酵バイオマス農業を、エコビレッジ構想モデル事業ファンドを活用し進めたい。

鈴木梯介●2011年の東日本大震災の経験から中央集権型とは別の、小規模で分散型、再生可能な地産地消エネルギーシステムを作る必要性を痛感した。2013年には「エネルギーから経済を考える経営者ネットワーク会議」を中小企業300社が集まって発足した。「エネルギーなんでも相談所」を設け、太陽光、風力、バイオマスなどのアドバイザーが企業の省エネの取り組みを支えている。地域の企業34社でエネルギー会社を作り、地元で電力の小売を始めて地産地消の仕組みが出来上がっている。小田原市は毎年300億円ほど外から買ったエネルギーを使っている。その中の1〜2割でも国内各地域が自前で賄えば地域の経済活性化の原資になりうる。エネルギーで地産地消することが最大の経済振興策となる。

信時正人●横浜市は2008年に環境



南川秀樹客員教授（セッション1）

モデル都市、2011年には環境未来都市になった。脱温暖化行動方針「CO₂DO30」を策定し、低炭素、地域活性化、国際展開をテーマに、環境も防災も、市内のどこに川や崖があるのかの把握から見直し、IT使用で将来を描き進めている。取り組みの一つが1000社以上の企業と市民参加で行う「横浜ブルーカーボン事業」で、金沢区八景島の沖合でわかめ、こんぶを作る。CO₂削減と海洋浄化が進み、地域産業が育つ。

袖野玲子●日本の自治体での国連で採

択された持続可能な開発目標（SDGs）の取り組みは始まったばかりで、地域のオリジナリティをいかし、各々抱える課題をSDGsの考え方を参考に、取り組みが大切だ。SDGsは、貧困、飢餓、エネルギー、気候変動、平和的社会と持続可能な開発といった経済、社会、環境に統合的に対応するよう作った17目標と169のターゲットが密接に関連している。一つの目標に取り組みれば他のターゲットにも波及効果がある。諸目標を達成すべく力を尽くすことが求められている。

Session 2

セッション2 地域と金融

環境金融、地域金融の新たなコンセプトと取り組みについて紹介

司会：吉澤保幸 一般社団法人場所文化フォーラム名誉理事
パネリスト：小椋正清 滋賀県東近江市長

中井徳太郎 環境省総合環境政策統括官

太田浩史 真宗大谷派高岡教区大福寺住職

深尾昌峰 龍谷大学准教授

吉澤保幸●地域の環境への取り組みの中

で、循環を支えるローカルファイナンスの流れが出ています。低成長の中で、どう金融構造を変え地域の発展を目指すかが問われる。

中井徳太郎●環境省の「つなげよう、支えよう森里川海」のプロジェクトは、2050年に温室効果ガスを80%減らしている社会、世界と調和しているイメージで、循環共生社会をめざす。

環境は付加価値が伸びる分野で、ビジネスチャンスでもある。温暖化対策のために環境ビジネスへの融資を進めるBank of Americaの動きや、SDGs関連株式に投資する動きも進んでいる。金融の活用を通じて地方創生と持続可能な社会に向けて、ファンドとして環境案件にお金が回る仕組みをつくるべきだ。地域の目線で、地域の創生ファンドをつくり、必要な課題にマネ

ーを流し、環境を支えることが要となる。

小椋正清●近江は古くから東西の分岐点、交流点、多様性の高い地域であり、近江商人が活躍した。轆轤を使い木材を原料に椀や盆などを作る木地師が、近江商人の手引きをした歴史もある。

売り手よし買い手よし経済よしの「三方よし」が近江商人の精神だ。市全体で進める2030年ビジョンの推進のために、「東近江三方よし基金」を設立し、300万円集まった。無担保で貸せる制度を若い起業家に利用してもらうなど、基金を軸とした事業が始まっている。

深尾昌峰●地域市民が自ら資金を調達することで地域のあり方を変えていく。投資のあり方を変える社会投資だ。いままでの投資は収益を軸として評価していたが、社会的利益をどう考えるかが大切だ。地域の補助金改革の実験のひとつが「東近江三方よし基金」で、社会的投資を募って地場産業化する実験である。市民の行動様式を変え、地域活性化へ向けにお金の流れをデザインできると期待されている。

太田浩史●地域が先祖から受け継いできた土地独特の尊さや良さを「土徳」と呼ぶ。土徳は目に見えず金に勘定できない。無限で、共有しかできない。社会的投資は何に投資するかが要だ。地域の育む力、美しい心、美しい生活を磨き、どう伝えるかにつながるお金の使い方を考えることだ。表は経済、裏は土徳に裏付けられて地域は発展する。

Session 3

セッション3 地域とグローバリゼーション

地域活性化に追い風を吹かせるかについて議論

司会：周 牧之 本学経済学部教授
パネリスト：新井良亮 株式会社ルミネ取締役会長
山本和彦 森ビル都市企画株式会社代表取締役社長
竹岡倫示 株式会社日本経済新聞社専務執行役員
安藤晴彦 経済産業省戦略輸出交渉官



周 牧之教授 (セッション3)

周 牧之●日中の協力で開発した「中国都市総合発展指標」のデータで見ると、世界では1980年代以降、都市人口が250万人以上増加した都市が92都市に達し、中でも1000万人以上人口が増えた都市が11都市もあった。グローバリゼーションと情報革命の中でメガシティ化が世界中で進んでいる。その意味では東京一極集中と地方の人口減少は決して日本だけの現象ではない。ただし、そのグローバリゼーションはインバウンドという恩恵を地方にもたらすことが考えられる。現在日本

ではインバウンドはまだ東京、大阪、京都など限定された地域に集中している。インバウンドの力を借りて地方創生をするにはどんな取り組みが必要か、問題提起したい。

新井良亮●地域展開やグローバル進出をする場合、その地の経営資源をどう使い何を産み出すかを考えることが大切だ。その際は地方と都市とでネットワークを組むことだ。連携によって新しい知恵、新しい仕掛け、価値を生み出せる。もう一つは情報発信だ。企業経営は有り体ではなく、30年先50年先を見据えてやっていく気持ちが必要だ。とりわけ行動することが肝要である。

山本和彦●いまは都市間競争の時代だ。六本木ヒルズ建設にあたり、グローバルに通じる都市造り、とくに東京に欠けていた文化の中心創りを考えた。六本木ヒルズでは現在アートイベントなどを数多く開催し、文化の街として大勢の人を呼び込んでいる。一方、地方は正直厳しい。地方は車社会でロードサイド店やモールが主体だ。香川県高

松市の中心商店街の再開発では、シャッターが閉まっていたアーケード街に広場を作った。若い母親がバギーを押して来るようになり、お年寄りがおしゃべりをして美味しい料理を食べたいという気持ちで訪れている。少しは良い循環ができたと思う。ローカルに徹していればグローバルに通じる。地方に一番大切なのは突き抜けたローカル性を表現することだ。

竹岡倫示●訪日外国人数は2016年に2404万人と過去最高になった。この10年で約3倍だ。今年は2700万人になる勢いだ。7割以上は中国、韓国など北東アジアから来ている。インバウンドを地域活性化にどう活かすかは、地域の魅力を知ることから始まる。これは観光客に聞くのが一番だ。インバウンド客に人気の場所は、日本人が見て魅力ある場所ばかりではなく分析が必要だ。地域に既存のものをど

う組み合わせるかの発想力と行動力があるのという。観光、経営、インバウンドによる地域活性化にはリーダーの育成が大切だ。

安藤晴彦●日本も世界の取り組みに協力している。事例として、日本とミャンマーの官民が共同開発したティラワの工業団地がある。日本、中国、台湾、アメリカ、ヨーロッパからも企業が来て、5、6万人の雇用創出ができる。私自身が関係しているそのような都市建設を手伝う事例にはさらにインドのアマラヴァティや、モンゴルのウランバートルなどがある。中国の雄安新区開発では水の汚染が心配される。これには日中協力の可能性があると思う。

また現在、山梨では世界最高の燃料電池拠点を立ち上げ、燃料電池をキーにしながら地域づくりを強化していく。それらをコアにして海外との協力を推進していける。

Reception レセプションパーティー

セッションの終了後には、本学6号館大会議室に場所を移してレセプションパーティーを開催。多くの来賓の方々にご挨拶をいただき、また参加者が相互に懇親を深める機会となりました。

中国から駆けつけてくださった杜平中国第13次5カ年計画専門家委員会秘書長をはじめ、杉本和行公正取引委員会委員長・元財務事務次官、谷津龍太郎中間貯蔵・環境安全事業株式会社代

表取締役社長・元環境事務次官、明曉東駐日中国大使館公使参事官、阮湘平同公使参事官、武田信二株式会社東京放送ホールディングス代表取締役社長、前多俊宏株式会社エムティーアイ代表取締役社長、長谷部敏治NTT出版株式会社代表取締役社長ら来賓の方々の挨拶を受け、閉会挨拶に立った周教授が登壇者および来場者に謝辞を述べて閉会しました。

東京経済大学 創立一二〇周年 記念事業募金



創立一二〇周年記念事業募金につきましては、学内外の皆様からのご支援ご協力により、二〇一七年十一月二十日までに、一〇四八件、一億八二五万五六〇三円のご寄付を頂戴いたしました。皆様のご厚情に深く感謝申し上げます。今回は、二〇一七年六月一日から十一月二十日までに受け付けましたすべての寄付者のご芳名を掲載させていただきます。カッコ「」内の金額は前回掲載分を含んだ累計額です。

引き続きご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

二〇一八年一月 学校法人 東京経済大学 理事長 後藤 鉄四郎
東京経済大学 学長 堺 憲一

(注)

・ご寄付を追加された場合は、累計額により再度掲載いたします。
・寄付金受領証明書(領収書)及び免税書類はその都度お送りしています。

校友センター 創立一二〇周年記念事業募金室

TEL 〇四二・三二八・六一〇〇
FAX 〇四二・三二八・八〇二九

創立120周年記念事業募金応募状況

2017年2月1日～11月20日申込分

	件数	金額(円)
一般法人/卒業生法人	19	59,528,000
卒業生	867	76,973,047
卒業生団体	31	2,150,556
在学生父母	53	1,426,000
一般	5	380,000
法人役員/教職員	73	42,098,000
合計	1,048	182,555,603

目標金額 20億円

※個人情報保護のためWEB掲載を控えさせていただきます。

東京経済大学 教育振興資金寄付御芳名

「東京経済大学教育振興資金」の募集にあたり、保護者の皆様より多くのご協力をいただきました。ここにご寄付を賜りました方々の御芳名を掲載し、深甚の謝意を表します。ご厚志は、教育の充実や奨学金制度の拡充などのために有効に活用させていただきます。今後とも、本学発展のためにご支援を賜りますようお願い申し上げます。

二〇一八年一月 学校法人 東京経済大学 理事長 後藤 鏝四郎
東京経済大学 学長 堺 憲一

東京経済大学に 御寄付いただいた方々の御芳名

皆様より多くの御寄付をいただきました。ここに御寄付を賜りました方々の御芳名を掲載し、深甚の謝意を表します。ご厚志は、東京経済大学の教育および学生支援のより一層の充実のために有効に活用させていただきます。今後とも、本学発展のためにご支援を賜りますようお願い申し上げます。

二〇一八年一月 学校法人 東京経済大学 理事長 後藤 鏝四郎
東京経済大学 学長 堺 憲一

「TKU古本募金」はじめました!

みなさまの読み終えた本が、
奨学金として、東経大生の学業を支えます。

TKU古本募金は、
卒業生・在学生・保護者・教職員・一般の方々から
書籍をお送りいただき、それを売却して得られた金額が、
東京経済大学奨学金基金として役立てられるプロジェクトです。



読み終えたあと置き場所に困っている書籍、視聴しなくなったDVD・CDなどはございませんか?
お部屋の整理やお引っ越しの際などに、ぜひご協力ください。

／ 詳細はこちら ／

お申し込み方法

WEBで申込む

電話で申込む

STEP 1 梱包

書籍・DVD・CD等を段ボール箱へ詰め、
上記WEBサイトにアクセスしてください。

書籍・DVD・CD等を段ボール箱へ詰め、
申込書をご記入ください。
*申込書はパンフレットまたは上記サイトに掲載されています。

STEP 2 申込

WEBフォームに必要事項をご記入いただき、
お申込みください。

WEB

TKU古本募金

検索

提携会社バリューブックスに電話し、「東京経済大学
「TKU古本募金」に申込みたい」とお伝えください。

受付電話番号 **0120-826-292**

受付時間：10時～21時 日曜は17時まで 年中無休

STEP 3 集荷

指定のお時間に宅配業者が集荷に伺います。
※5点以上ご提供いただいた場合には、**送料無料**です。

STEP 4 寄付

提携会社バリューブックスにて、買い取られます。
その代金は、「学校法人東京経済大学」に寄付されます。
※集荷から約10日で、提携会社バリューブックスより「書籍寄付受領書」「お礼状」が送付されます。
※寄付申告に必要な領収書発行を希望される方は、別途、本学経理課までご連絡ください。

「TKU古本募金」回収箱を設置して、寄付書籍を募ります!

設置場所：図書館、学習支援課「学習センター」、校友センター「大手町談話室（サテライト）」、大学生協

※回収箱への投函の場合は、匿名でのご寄付になります。

TKU古本募金に関するお問い合わせ

東京経済大学 図書課

受付時間：月～金(9時～11時45分／12時45分～17時)
TEL. 042-328-7764
E-mail. library@s.tku.ac.jp

寄付・免税措置に関するお問い合わせ

東京経済大学 経理課

受付時間：月～金(9時～11時45分／12時45分～17時)
TEL. 042-328-7737
E-mail. keiri@s.tku.ac.jp

集荷・その他取扱品に関するお問い合わせ

株式会社バリューブックス

TEL. 0120-826-292
E-mail. info@furuhoon-bokin.jp
古物商免許：長野県公安委員会第481100800018号